

昭和45年度 和歌山県文化賞

わき むら よし た ろう
脇 村 義太郎

住 所：神奈川県逗子市

出 身 地：和歌山県田辺市

生 年：明治33年

◎業績及び経歴

大正7年田辺中学校卒業後第三高等学校を経て大正13年東京帝国大学経済学部を卒業。同15年東京帝国大学教授、昭和10年から12年までイギリスに留学。昭和20年東大教授となられ、同25年から35年までは同大学評議員を務められた。

昭和26年より2年間更に同31年より3年間と2回にわたり経済学部長も務められ、この間、昭和26年には経済学博士の学位を受け、同36年名誉教授。同38年藍綬褒章を受章。更に同39年には日本学士院会員となられたわが国経済学の権威である。

氏はその深い学識を積極的に活用され、昭和30年以来10年間にわたり船員中央労働委員会々長。昭和40年からは、大学教授相互の研究機関である日本経営史学会の会長となり、また、海運造船合理化審議会委員、さらには和歌山県経済顧問として、広く社会的にも活躍され、学問的研究と同時に実践の面においても現在の日本経済に大きく貢献され、その著作も数多い。

また、その深い学殖により、紀州の産んだ南画の大家である桑山玉州、祇園南海、野呂介石などの作品の紹介につとめられている。

昭和32年、父市太郎氏の志を継ぎ、財団法人脇村奨学会を設立。郷里の向学心に燃える青年の進路を開き、幾多の人材の養成に尽力されており、田辺市立図書館の蔵書の充実整備、更には母校の施設の整備についても格段の配慮をされるなど、常に郷里の後進の育成指導に意を用いられ、文化の振興に寄与すること大きく、その偉大な業績と共に深く尊敬されている。